

平成 27 年度岡山県環境保健センター外部評価委員会評価結果の概要

1 外部評価委員会の概要

(1) 開催日時

平成 27 年 8 月 25 日 (火) 14:00～17:00

(2) 開催場所

ピュアリティまきび「白鳥」(岡山市北区下石井 2-6-41)

(3) 外部評価委員 (出席者)

職名	氏名	専門分野
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授	有元佐賀恵	薬学
川崎医療福祉大学 医療福祉学部 教授	田口豊郁	産業保健福祉学
中国四国地方環境事務所 所長	築島 明	環境行政
岡山理科大学 理学部 特任教授	野上祐作	環境化学
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授	山田雅夫	病原ウイルス学

(五十音順)

(4) 評価対象

平成 28 年度～平成 30 年度に実施する調査研究に係る事前評価

番号	課題名	担当科
H27-01	微小粒子状物質 (PM2.5) の現況把握に関する研究	大気科
H27-02	環境中有害化学物質の分析・検索技術の開発に関する研究	水質科
H27-03	児島湖水質汚濁メカニズムの解明	
H27-04	廃棄物最終処分場の排水等に係る適正かつ低コストな処理方法の検討に関する研究	
H27-05	感染症起因菌の疫学調査	細菌科
H27-06	胃腸炎起因ウイルスの流行状況の把握と迅速で正確な検査法確立に関する研究	ウイルス科
H27-07	食品と医薬品等に含まれる有害化学物質等の分析技術の開発に関する研究	衛生化学科

2 課題別の評価結果

H27-01

課 題 名	微小粒子状物質 (PM2.5) の現況把握に関する研究							
担 当 科	環境科学部 大気科							
課題の概要	PM2.5に係る大気環境の実態を詳細に調査して、地域的な特質の把握や発生源別寄与割合の推定等を行う。							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	2 人	3 人				4.4
		有 効 性	1 人	4 人				4.2
		効率性・妥当性		5 人				4.0
総合評価	1 人	4 人					4.2	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> 岡山市、倉敷市との効果的な連携を期待する。 全国の関係機関とも適切な連携を進めて欲しい。 							

H27-02

課 題 名	環境中有害化学物質の分析・検索技術の開発に関する研究							
担 当 科	環境科学部 水質科							
課題の概要	化学物質の流出事故等発生時に、適切な対応が可能な態勢を構築するため、緊急時における有害化学物質の分析法を検討、開発する。							
評 価 結 果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評 価 項 目	必 要 性	3 人	2 人				4.6
		有 効 性		5 人				4.0
		効率性・妥当性	1 人	4 人				4.2
総合評価	1 人	4 人					4.2	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標をもう少し具体的にして欲しい。 卓越した技術にさらに磨きをかける意味で、有用な研究である。 							

H27-03

課 題 名	児島湖水質汚濁メカニズムの解明							
担 当 科	環境科学部 水質科							
課題の概要	児島湖への流入水負荷量及び児島湖の水質に係る物質収支の推移を詳細に解析することにより、児島湖の汚濁メカニズムを解明し、併せて行政施策と水質変動の関連について検証を行い、水質改善施策検討の基礎資料とする。							
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	必 要 性		4 人	1 人			3. 8
		有 効 性		3 人	2 人			3. 6
		効率性・妥当性		2 人	3 人			3. 4
	総合評価		3 人	2 人			3. 6	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・過去のデータ、経験からポイントを絞って取組むことを期待する。 ・過去のデータから問題点をあぶり出し、その問題に対する新しいアプローチを期待する。 ・過去のデータを整理することの意義は理解できた。 							

H27-04

課 題 名	廃棄物最終処分場の排水等に係る適正かつ低コストな処理方法の検討に関する研究							
担 当 科	環境科学部 水質科							
課題の概要	廃棄物最終処分場からの排水等を適正かつ低コストで処理できる技術を検討する。							
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	必 要 性	2 人	2 人	1 人			4. 2
		有 効 性		4 人	1 人			3. 8
		効率性・妥当性		3 人	2 人			3. 6
	総合評価	1 人	3 人	1 人			4. 0	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者、県の役割を整理した上で、取組むべき。 ・目標達成は、極めて難しいのではないかとと思われる。 ・問題点はあるが、新しいテーマへの取組は評価します。 							

H27-05

課 題 名	感染症起因菌の疫学調査							
担 当 科	保健科学部 細菌科							
課題の概要	腸管出血性大腸菌感染症等の有効な疫学調査を実施して、感染源・感染経路究明及び感染予防対策等に資する。							
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	必 要 性	3 人	2 人				4. 6
		有 効 性	1 人	3 人	1 人			4. 0
		効率性・妥当性	2 人	3 人				4. 4
総合評価	2 人	3 人				4. 4		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの菌種について感染源を含む疫学調査の意義は大きいと思われる。 ・ より広範なデータベースの充実を期待する。 							

H27-06

課 題 名	胃腸炎起因ウイルスの流行状況の把握と迅速で正確な検査法確立に関する研究							
担 当 科	保健科学部 ウイルス科							
課題の概要	感染症予防対策及び集団食中毒等の原因究明に資するため、ロタウイルス流行状況を正確に把握することで、ワクチン導入による流行への影響を評価するとともに、集団胃腸炎起因ウイルスを同時に検査可能な遺伝子検査法を確立する。							
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	必 要 性	2 人	3 人				4. 4
		有 効 性	1 人	4 人				4. 2
		効率性・妥当性	1 人	4 人				4. 2
総合評価	2 人	3 人				4. 4		
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロタウイルスの解析は、研究対象として興味深い。 ・ ノロ、アストロ、サポの3ウイルス同時検出法は、実用化が期待される。 ・ 他の感染症ウイルスに関しても、研究を拡大する方向で検討されたい。 							

H27-07

課 題 名	食品と医薬品等に含まれる有害化学物質等の分析技術の開発に関する研究							
担 当 科	保健科学部 衛生化学科							
課題の概要	残留農薬、動物用医薬品、自然毒等の効率的な分析技術を確立するとともに、アレルギー物質及び遺伝子組換え食品について検査法を検討する。							
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均	
	評価項目	必 要 性	1 人	4 人				4. 2
		有 効 性		4 人	1 人			3. 8
		効率性・妥当性	1 人	2 人	2 人			3. 8
	総合評価		5 人				4. 0	
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー物質、遺伝子組換え食品の分析は、特に取組みが必要な課題だと思う。 ・県がするべきか、はっきりしない。 							

3 その他助言・指摘事項

<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間の計画期間における年度毎の実施内容の具体性が乏しい。 ・ 継続的に実施する研究について、最終的にどの辺りを着地点として実施するのか、示せる場合には示して欲しい。また、継続的な研究については、計画期間内の目標を示して欲しい。 ・ 事前評価で指摘を受けた内容について、調査研究計画に反映させるなど、フォローをしっかりと行って欲しい。

※凡例

<p>【評価項目】：5点 極めて優れている、4点 優れている、3点 普通、2点 改善すべき、1点 劣っている</p> <p>【総合評価】：5点 優先的に実施することが適当、4点 実施することが適当、3点 計画等を改善して実施することが適当、2点 実施の必要性が低い、1点 計画等を見直して再評価を受けることが必要</p>
--